

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 22



大阪にも「清水寺」?
えっ、どこに?

数年前、テレビ番組で「大阪にも清水寺」が紹介されていました。場所が示されていなかったもので、「えっ、どこに」とずっと気になっていました。「大阪の清水寺」を尋ねてみました。正式名称は有栖山清光院清水寺といい、四天王寺の支院です。1640年(寛永17年)に延海大阿闍梨が観世音菩薩のお告げをうけ、京都の清水寺から聖徳太子の作といわれる十一面千手観世音菩薩を遷して本尊として祀り、享保年間(1716年〜36年)に寺号を「新清水寺」に変えたとされています。

大阪市内では 唯一の天然の滝

京都清水寺のような立派な本堂はありませんが、「玉出の滝」は大阪



清水寺の「音羽の滝」に似た「玉出の滝」



「舞台」からは通天閣が見える

市内唯一の天然の滝で、四天王寺の青竜池が水源です(残念ながら飲めません)。清水寺の音羽の滝によく似た構造になっていて、滝の奥にある祠には不動明王が祀られ、滝に打たれながら真言を唱え、礼拝すると抜苦与楽、福寿増長、心願成就の霊験が授かるといわれています。寺の前には、石の舞台もあり、昔は海に夕陽が沈むのが見えたことから、「夕陽が丘」と名付けられたとのこと。また、このあたりには多くの寺院があり、天王寺七坂など歴史の息づく街を散歩するのも、楽しいでしょう。

所在地 大阪市天王寺区伶人町5-8
最寄駅 地下鉄「四天王寺前」夕陽ヶ丘

Culture Navi かるちガーナビ

いわれなき抑圧をうけた父を思い、過去に逆もどりさせないために!



この時代に「治安維持法」か?

「業務命令」で提出を求められた時、思想信条の自由を保障した日本国憲法に違反すると思ひ私は拒否しました。治安維持法が発令された時代でもないのに「どうして」という想いと同時に幼い頃のことを思い出して悪寒が走りました。父はシベリア抑留者でした。飢え・極寒・重労働の三重苦の生活の中で、空を飛ぶ鳥に家族・故郷への想いを託して男泣きしたといひます。共産圏からの帰郷を理由に就職ができませんでした。高熱の私が病院の待合室にいた時、父の

顔を見て「あーコワ」といった女性の言葉は今も忘れません。国際法違反であり、棄兵棄民政策によっていわれなき抑圧をうけてきました。そんな時代を二度と繰り返してはなりません。

全国からの励ましに元気づけられ

今私たちには、侵されることのない憲法で保障された権利があります。私は自分の良心を裏切ることにはできないと思っています。大阪の民主団体・労働組合をはじめ、全国からの励まし、ご支援は本当にありがたいです。これからもよろしくお願ひいたします。

「スタンダップ」はシンガーソングライターのかわさきゆたかさんが作曲した「思想調査アンケート裁判」の応援歌です。

「思想調査アンケート」裁判
原告59人の決意
スタンダップ
No.11 北野 倫子 さん

心に響くひとこと

貧乏は
呼べばいつでも来る
ゴールドスミス
(イギリスの詩人、作家、劇作家)

「金持ちになるのは容易なことではないが、貧乏になるのは簡単なことだ。世の中には貧乏を呼びそうな落とし穴がたくさんあるから、くれぐれも気をつけなければならない」。ゴールドスミス(1730年〜74年)はまた、「一度も倒れないことが良いのではない。倒れても立ち上がるこそすばらしい」といっています。

テレビニュースが えいが



(映画の宣伝用写真)

「少年H」

戦前・戦後を勇気と不屈で 生き抜いた家族の物語

1997年に発表されて340万部のベストセラーを記録した「少年H」。舞台美術家の妹尾河童(せのおかつば)の自伝的小説を映画化しました。戦前から戦後までの神戸を舞台に、日本が軍国主義化して戦争に突き進むもつて、家族4人が勇気、信念、愛情をもって、暗い時代の影をはねつけながら生きる姿を描きます。話題のひとつは実際に夫婦でもある水谷豊と伊藤蘭が夫婦役でも共演していること。また、焦土と化した神戸の町をリアルにスクリーンに再現させた映像も見ものです。昭和初期の神戸。「妹尾洋服店」を営む4人家族。洋服仕立て職人の盛夫とクリスチャンの敏子夫婦。仕事から外国人居留地にも出入りして

いることで西洋事情や文化にも接しています。長男の肇のセーターには胸にイニシャル「H」が入っています。妹の好子は家族思いでやさしく素直な少女。好奇心旺盛で曲がったことが嫌いな「少年H」ですが、オペラ音楽に興味を持たせてくれた近所の青年が警察に逮捕されたり、盛夫に対するスパイ容疑、学校で行われる軍事教練、妹の疎開、米軍の空襲という暗い時代に直面していきます。それでも「戦争はいつか終わる。その時に恥ずかしい人間にならなるとしたらあかんよ」という父の言葉をしっかりと胸に刻みます。メガホンを取るのには、「鉄道員(ぼっばや)」などの降旗康男監督。上映時間は122分。

一つ忘れてはならないことがある。我々銀行員は銀行を守るためではなくこの国で働く人々のために仕事をしているということです。テレビドラマ「半沢直樹」

ドラマ「半沢直樹」は大手銀行内の派閥争いなどの内部事情や、その中で奮闘する主人公を描き、たいへん大きな人気を博しています。第6話で「銀行を守るためには多少の犠牲はやむを得ない」と言う上司に対して、主人公が自身の銀行マンとしての哲学を語ります。この台詞にこの物語の思想が見える気がします。同作品が人々に我が国の歪んだ経済の実態について考える一助となることを期待します。